

松くい虫被害の仕組みと対策

1 松くい虫被害の仕組み

松くい虫被害は、「マツノザイセンチュウ」という体長1mmにも満たない線虫が松の木の中に侵入し、増えていくことで枯らします。

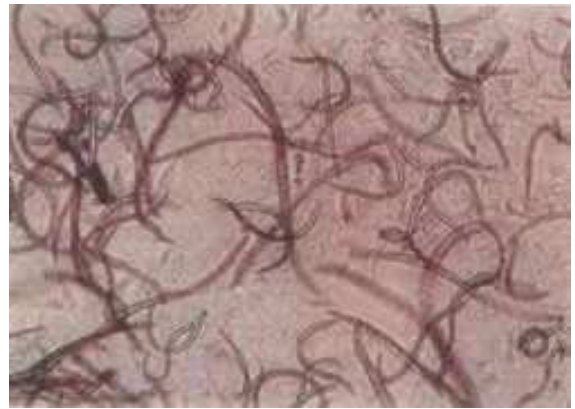
この線虫は自分自身では移動できないため、「マツノマダラカミキリ(以下「カミキリ」という。)」というカミキリムシにより、松から松へ移動します。

春から初夏にかけてカミキリが成虫になり松から飛び出しますが、このとき線虫がカミキリの体に乗ります。このカミキリが健全な松を飛び回り若い枝の皮を食べ、そのとき、線虫が噛み傷から松の中に侵入します。その後、線虫により弱った松にカミキリが卵を産みつけ、卵から孵化した幼虫は、夏の終わりから秋の間樹皮の下でやわらかい皮を食べながら成長し、蛹室を作り越冬します。

そして、また春から初夏にかけて成虫になり飛び出します。このようなサイクルにより松くい被害が広がります。



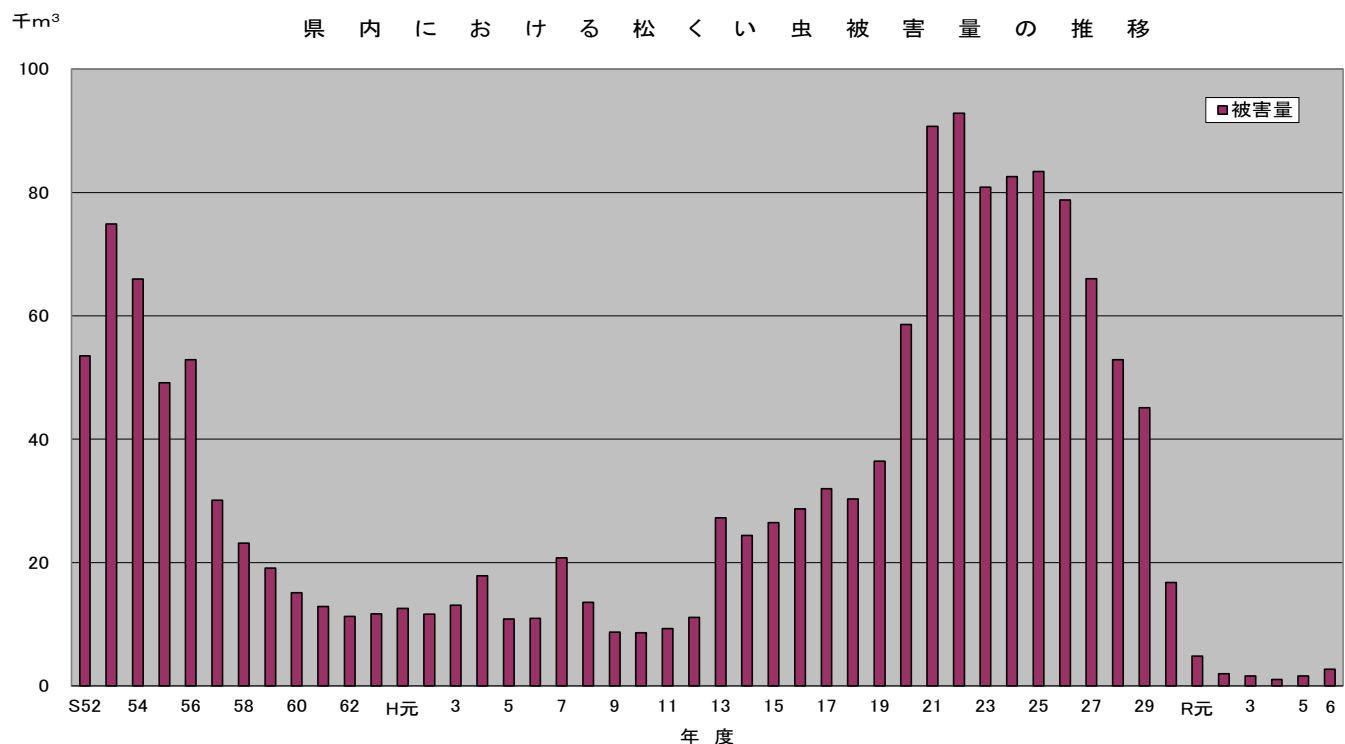
マツノマダラカミキリ



マツノザイセンチュウ

2 県内における被害状況(民有林)

令和6年度における県内民有林の松くい虫被害量は、約2千700立方メートル。



3 主な松くい虫防除方法

(1) 予防措置

(特別防除)

ヘリコプターにより薬剤を散布し、羽化脱出したカミキリの成虫を駆除する。



(無人ヘリ)

無人ヘリコプターにより薬剤を散布し、羽化脱出したカミキリの成虫を駆除する。



(地上散布)

地上散布(スパウター等)により薬剤を散布し、羽化脱出したカミキリの成虫を駆除する。



(樹幹注入)

健全な松の幹に薬剤を注入し、センチュウを殺虫し松枯れを防ぐ。



(2) 駆除措置

(くん蒸処理)

伐倒した被害木をビニールで包んで薬剤によりくん蒸し、松の中にいるカミキリの幼虫等を駆除する。



(破碎処理)

被害木をチップパーにより細かくチップ化することで、松の中にいるカミキリの幼虫等を駆除する。



(油剤処理)

伐倒した被害木に浸透性の高い薬剤を散布し、松の中にいるカミキリの幼虫等を駆除する。



(焼却処理)

被害木を焼却することで、松の中にいるカミキリの幼虫等を駆除する。

